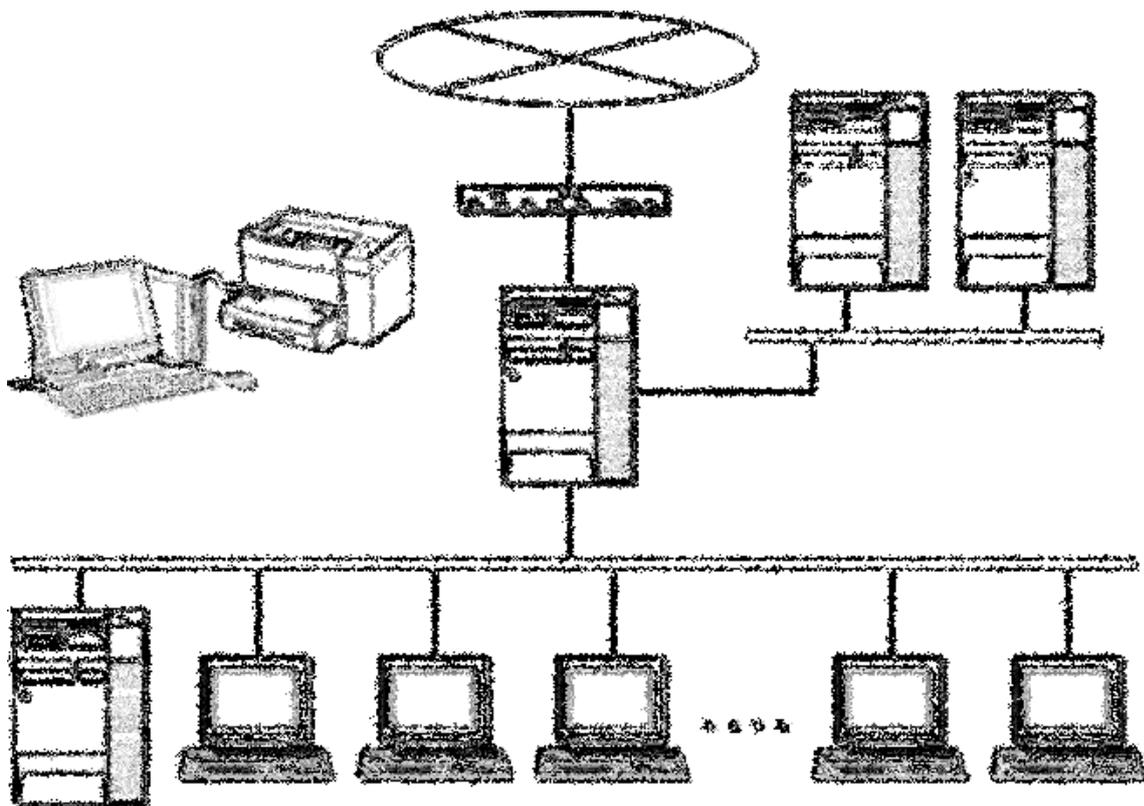


ネットワーク活用モデル事業 (高校教育指導課事業)



「ネットワーク活用モデル事業」

目 次

概要

教育局県立学校部高校教育指導課では、平成 19 年度に「第 3 次彩の国教育情報化推進計画」を策定した。この計画を受け、平成 20 年度に県立総合教育センターでは調査研究事業として「ネットワーク活用モデル事業」を企画し、調査研究期間を 1 年とし県立学校間ネットワークシステムの活用法について調査研究を行った。

第 1 章 研究を始めるにあたって

- 1 はじめに
- 2 研究の目的
- 3 研究の方法

第 2 章 NetCommons を利用した実施協力校の取り組み

- ・「中高一貫校としてのウェブサイト有効活用および総合学科校 PR の充実に関する研究」
埼玉県立小鹿野高等学校
- ・「NetCommons を活用したインタラクティブな学校ホームページの作成と効果的なホームページの運営」
埼玉県立熊谷工業高等学校
- ・「ネットワークを活用した「開かれた学校づくり」への取り組み」
埼玉県立越谷総合技術高等学校

第 3 章 まとめ

謝辞

参考資料

実施協力委員一覧

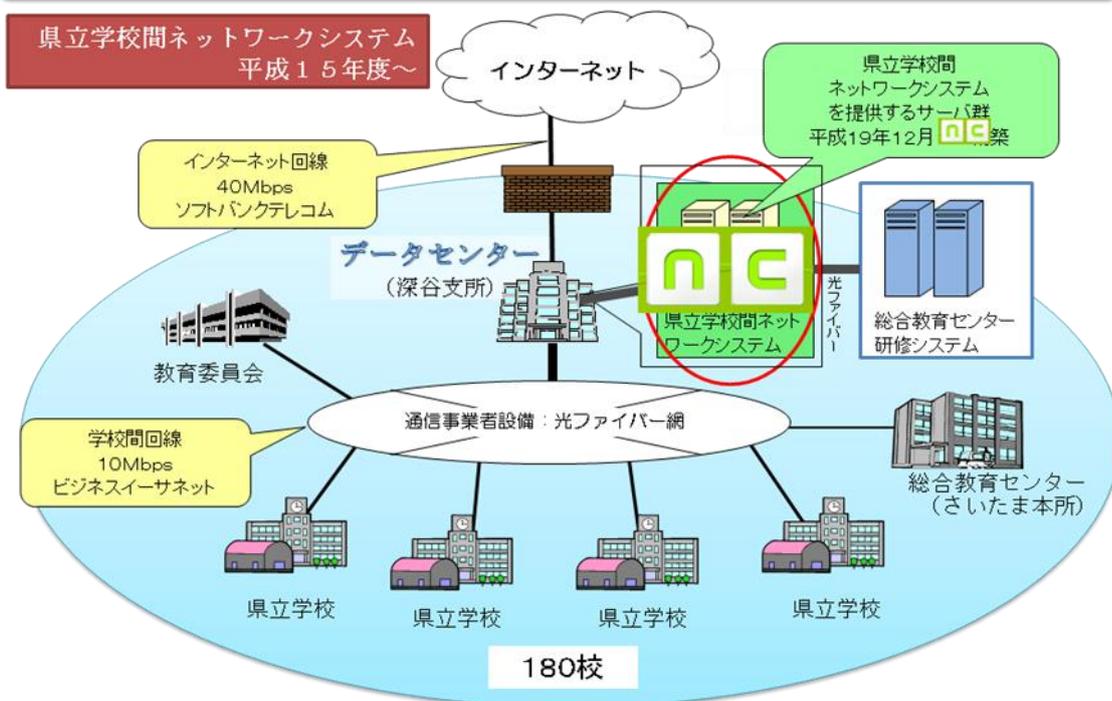
第1章 研究をはじめるとあって

1 はじめに

第3次彩の国教育情報化推進計画では「ICTの活用について調査研究を行い、その成果を全県で共有します」として、すべての県立学校でICTを有効活用するための研究を実施することを明記してある。具体的には、高度な技術的知識を必要としないNetCommonsを使った校務の情報化について検証し、その成果を周知することである。

NetCommonsは、平成19年度に実施された県立学校間ネットワークシステムの更新で新たに導入されたシステムである。従来の専門的な知識を必要とする学校ホームページに対して、ワープロを編集することができる程度のスキルがあればホームページを更新することができるシステムである。特定の教員に負担が集中しがちであった学校ホームページも、校務分掌や教科などの担当ごとに更新することが可能になる。また、インターネットに接続されている環境さえあればどこからでも更新することができることから、積極的な学校情報の発信に寄与することが期待される。本研究では県立学校3校に実施協力校を委嘱し、NetCommonsを活用した情報発信の可能性について調査研究を行った。

本県の学校間ネットワーク（県立学校180校対象）



Saitama Prefectural Comprehensive Education Center

2 研究の目的

平成 19 年度に県立学校間ネットワークに導入された NetCommons を活用し、学校情報の発信基盤を構築するための調査研究を行う。さらに電子メールを併用した活用方法やユーザ管理の手法について検証し、インタラクティブな Web サイトの構築を目指す。

3 研究の方法

(1) 実施協力校および実施協力委員

県立学校 3 校に実施協力校として委嘱する。また、実施協力委員に各実施協力校から 3 人を委嘱する。実施協力委員を中心に、1 年間を通じ県立学校間ネットワークに設置された NetCommons の活用方法について調査研究を行う。

(2) 実施協力委員会の年間計画

5 月 13 日 (火)	第 1 回実施協力委員会	委嘱式および事業説明
6 月 23 日 (月)	第 2 回実施協力委員会	NetCommons の利用法について
9 月 5 日 (金)	第 3 回実施協力委員会	Web サイトの作りこみ
2 月 13 日 (金)	第 4 回実施協力委員会	活用成果発表

第2章 NetCommons を利用した実施協力校の取り組み

「中高一貫教育校としてのウェブサイト有効活用および総合学科校PRの充実に関する研究」

県立小鹿野高等学校 教諭 川窪 慶彦

1 本校のネットワーク活用状況

本校ウェブサイトの研究以前と研究後の管理および運営の状況は以下の通りである。

(研究以前)

管理分掌：教務部 1名

更新状況：不定期（年間数回）

利用状況：学校経営の状況を公開し、PRとしての活用を目的としている。

利用者：不明（アンケート結果では生徒29.0%、保護者11.2%程度）

(研究後)

管理分掌：ウェブサイト管理運営検討委員会 3名

更新状況：「お知らせ」部分は年度末又は年度当初

「日誌」部分はその都度（可能な限り頻繁に）

利用状況：連携小・中学校にも協力を要請し、西秩父全体での教育活動の積極的なPRに活用することを目的としている。また、最新情報を可能な限り早く豊富に公開・提供することで、開かれた学校づくりの一助としている。

利用者：一日平均約200件の訪問がある。約1ヶ月半で1万件を超えた。

校内では教員用にPCの貸出をしており、無線LANでのネットワーク接続環境を整えたことで、利便性を高めている。また、職員室以外の準備室等へもLAN接続し、サーバへのアクセスを可能としており、ファイル管理や成績処理等、有効に活用している。ただし、県立学校間ネットワークのサービスに関しては校内研修を実施したが利用者は少数にとどまっている状況である。積極的な活用が進まない理由として、使わざるを得ない状況になっていないことが考えられる。

生徒については主に情報系授業での有効活用がなされている。各HR教室にもPCが配備されているが利用する生徒は少数である。

2 研究の目的

本校は中高一貫教育校として、また総合学科校として6年目を迎えた。

中高一貫教育の充実と発展のために、中・高での授業や部活動での連携等、様々な教育活動を通じて取組を推進してきた。しかし中高一貫教育に関する理解度は低く、保護者や地域住民に対しても具体的な取組の内容を周知することが困難な状態にある。そこで次の2点を主な目的とし、研究に取り組んだ。

(1) 小・中・高等学校教育の連携・協力及び教育に関するPR活動の強化

ウェブ利用の工夫と活用を推進し、生徒や保護者、地域住民はもちろん、広く本校教育活動に関する情報を提供・公開することで、高いPR効果を得られ、西秩父地域の小・中・高校が連携・協力し、ウェブサイトの活用を推進するための体制づくりやPR活動の方策などを探る。

(2) 開かれた学校づくりの推進と組織的取組体制の確立

ウェブサイトでの教育活動に関する積極的な情報提供と公開を推進することで、開かれた学校づくりの一助とする。そのために必要な組織体制を確立し、学校全体でウェブサイトの有効活用に取り組

みを推進する。

3 研究の概要

研究の目的を踏まえ、現状のウェブサイト運営の問題点や課題を確認した。その上で NetCommons の導入により有効活用が可能である項目を検討し、研究を推進した。

研究推進にはウェブサイトの管理運営に関する専門委員会の設置を企画委員会に提案し、実現した。さらに、中高連携に関する手続きのために、西秩父地域中高一貫運営委員会（小学校を含む）における各校管理職への理解と協力を求め組織体制を整えた。

研究過程においては教職員・生徒・保護者全員に協力を要請し、アンケート調査も2度実施した。この結果を改善と活用の資料とし、委員会のメンバーを中心にウェブサイトの構築を行った。

研究を通じて特に以下の点に留意した。

- 1) 委員会の発足（暫定委員会とし、次年度以降の組織体制についても検討する）
- 2) 研修会の実施（連携中学校との合同研修会を実現する）
- 3) 連携中学校への協力要請（掲載記事に関する協力の要請）

4 研究課題および課題設定の理由

研究課題として以下の6点を挙げ、ウェブサイト管理運営の効率化や有効活用を図った。

(1) 体系的・計画的な情報の公開及び更新

これまで本校サイトに掲載されていた情報は、数年前の記事や写真がそのままの状態であった。また、本校生徒・保護者や中学生等に興味関心を持ってもらえるような情報も不足していた。

(2) 管理運営に関する担当者の負担分散（組織的な管理運営体制の確立）

これまでウェブサイト管理は、特定の担当者が自身の裁量において情報公開・更新等をおこなってきた。個人の裁量により、質の高いデザイン性を持つという利点はあった。しかし組織的に管理できていなかったため、担当者以外に情報公開・更新等の手続き方法がわからず、必然的に一極集中の非効率的な状況に陥っていた。

(3) 教育活動のPR効果および学校への理解促進

本校のウェブサイトは情報の更新が遅れがちであったことから、おそらくは閲覧者も極めて少ない状況であったと思われる。昨今の一般的なウェブ利用状況を考えれば、ウェブサイトの有効活用によるPR効果は少なからずあると考えられた。

(4) 開かれた学校づくりの推進

学校の教育活動に関する情報は、アンケートの結果からも保護者・地域の大きな関心事であると考えた。ウェブサイトでの積極的な情報公開・提供により、本校の様子を広く周知する機会を増やすことが、開かれた学校づくりの一助になる。

(5) 教職員・生徒の利用促進

本校職員・生徒ですら利用する価値の低かった内容を改善し、記事や機能の充実により付加価値を向上させ利用促進を図る。

(6) 教職員の情報技術向上と情報教育に関する興味関心向上・理解促進

NetCommons の利用を通して、教職員の情報技術向上を図り、さらに情報教育に関する興味関心向上・理解促進を図る。

5 実践報告

研究を通して取り組んだ実践は以下の通りである。

- 1) 企画委員会に提案し校内に「ウェブサイト管理運営検討委員会」を新規に設置させた。

- 2) ウェブサイト管理運営検討委員会においてウェブサイトの内容、管理方法等必要事項を検討した。
- 3) 連携中学校へ呼びかけ、合同でのウェブサイト運営に関する取組を検討した。
- 4) 本校職員および連携中学校（小学校を含む）の職員合同での研修会を実施した。
- 5) 委員会で最終的な内容および管理方法等について確定し、職員会議において全職員の理解を得た。
- 6) 連携小中学校のリンク及び記事掲載スペースを含む、新規サイトを構築させた。
- 7) 完成後アンケート等による評価を求め、改善点等を把握する。
- 8) 必要な改善を繰り返すことで完成度を高める。

(実践スケジュール)

月	校内計画	備考
4		
5	ウェブサイト管理運営検討委員会の設置	企画委員会への提案
6	委員会でのサイト内容に関する検討 アンケート調査	NetCommons の研究 教職員・生徒・保護者対象
7	連携中学校への働きかけ	研修会の案内等
8	ウェブサイト仮構築	非公開での管理・運営
9	ウェブサイト仮公開	本校教職員にのみ公開
10	職員研修会の実施（小中高連携）	小・中・高合同研修会
11	ウェブサイト本公開	
12	ウェブサイトの内容修正・追加等	
1	アンケート調査	教職員・生徒・保護者対象
2	連携中学校（小学校を含む）への働きかけ	
3	ウェブサイト内の記事を一齐に更新する	新年度に向けた記事更新

(アンケートについて)

- 第1回 平成20年6月 全教職員、生徒、保護者に対して実施
ウェブサイト新規公開前の状況を把握することを目的とする。
- 第2回 平成21年1月 全教職員、生徒、保護者に対して実施
新規に公開したウェブサイトに関する感想や意見を把握することを目的とする。

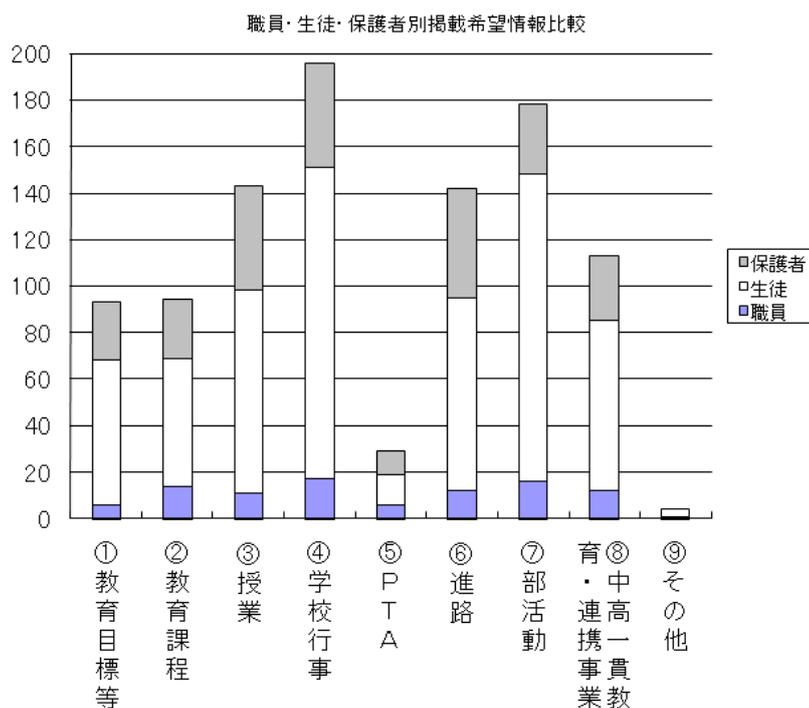


図1 職員・生徒・保護者別掲載希望情報比較（希望者数）

（研修会概況）

研修会は小学校の要請もあり、小中高合同で実施した。研修内容は以下の通りである。

日 程：平成20年10月9日（木）15時45分～17時00分

場 所：小鹿野高校 情報処理室

内 容：小鹿野高校の新しいウェブサイトモデルとし、NetCommonsの基本的な利用方法（主として記事の掲載・更新方法）について実習した。

- ・アカウントの考え方
- ・情報登録および公開の方法について
- ・使用機器・ソフトウェアおよびページ設定の方法等について

参加者：小鹿野高校教職員（事務室担当者を含む）34名

小学校教員 5名（小鹿野小、長若小、三田川小、両神小、吉田小）

中学校教員 5名（小鹿野中、長若中、三田川中、両神中、吉田中）

資 料：研修会に際しオリジナルテキストを作成して使用した。

備 考：研修会中、本校のウェブサイトに一斉（PC約40台）にアクセスをかけたところ、「F5アタック」とのエラーメッセージが表示され全台接続不能となった。本校ウェブサイトの設定が原因と指摘を受けたが、現在も対応方法は不明である。当日は県立学校間ネットワークサポートデスク担当者に依頼し、セキュリティのロックを一時的に全て解除（サポートデスク側での対応）して頂くことで暫定的に対応した。このため30分以上研修が中断することとなった。

(記事更新について)

ウェブサイト利用の効果を高め、また維持するためには、情報陳腐化を防止し、常に最新の情報を提供しなければならない。このための組織体制は、委員会を中心に確立した。記事の新規掲載と更新手順については以下のような基準を作成した。

・「お知らせ」機能を用いた記事は、年度末または年度当初に一斉に実施する。

全記事について管理職の決裁を得る。

・「日誌」機能を用いた記事は、必要に応じてその都度掲載する。

全記事について教頭の決裁を得る。

更新手段はシンプルでなければ全教職員による取組が期待できない。しかし外部へ提供する内容であるだけに、無責任な管理体制も許されない。このため、全ての記事について管理職が確認し、許可を得て掲載するようにした。決済方法は専用の用紙に記入し、管理職へ提出するようにし、比較的シンプルな手段とした。

可能な限りシンプルな手続きとし、日頃から記事の更新の呼びかけを継続しているが、記事の掲載をする教職員は限定的となり、ウェブサイトの活気が失われかねない状況にあるのが現実である。

6 成果と今後の課題

NetCommons を導入し、ウェブサイトを新規公開したことで得られた成果は「組織的・体系的なウェブサイト管理運営体制の確立」が最も大きいと考えられる。

管理運営体制はウェブサイト管理運営検討委員会が主体であるが、記事の新規公開や更新などは、関連する分掌や教科等で取り組むようになった。また連携中学校や近隣の小学校においても NetCommons に強い興味を持っており、研修会へ積極的に参加した。本校が取り組んでいる西秩父地域中高一貫運営委員会を生かし、小・中学校にもウェブ活用の価値に対する理解を深めさせると共に、連携の重要性を再確認することができた。

NetCommons の導入は多くの教職員の興味関心を得ることができたため、これまでのウェブサイト管理運営の手法を改めるのによい機会となった。学校間ネットワークの利便性を再認識するきっかけにもなったと考えられる。

しかし、ウェブサイト管理運営に関しては、現段階ではリーダーシップをとる担当者が必要であり、担当者の取り組む姿勢によってはすぐに情報の陳腐化を招く。本校では、連携中学校での記事更新が未だに実現していない状況でもあり、引き続き働きかけを継続しなければならない。

NetCommons は利便性の高いシステムであり、活用方法によっては大きな成果につながると思われる。そのためには、学校全体でウェブサイトの価値に対する理解を深め、一人一人が情報公開・提供の重要性に気づき、自らが責任を持って積極的に活用するという気持ちを醸成していかなければならないと考える。

今後の予定としては、現在の「ウェブサイト管理運営検討委員会」を改め、「ウェブサイト管理委員会」とする。委員は管理職から委嘱を受けた担当者3名程度とし、これに各分掌・学年・教科の代表者及び連携している小・中学校を加え、拡大委員会とする予定である。

NetCommons には今回本校で研究項目に含めなかったグループウェア機能も充実している。将来ウェブサイト管理運営の安定が確保された後、教職員の情報技術と情報に対する意識向上を含め、より多くの機能を有効に活用できるようにしたいと考えている。

NetCommons を活用したインタラクティブな学校ホームページの作成と効果的なホームページの運営

県立熊谷工業高等学校 教諭 田村 健一

1 本校のネットワーク活用状況

(1) 校内 LAN 組織の概要

本校は、平成12年度に校内に LAN を構築しインターネット利用環境の整備や情報の共有化等を目指して、工業科代表、普通科代表、将来構想委員会代表、有志等8名からなる NetLAN 委員会が発足した。校内 LAN 構築後、この委員会は終了し、運営は学習指導部の校内 LAN 係が担当することとなった。校内 LAN 係は、1名ないし2名で、ユーザ管理、学校のホームページ更新、セキュリティ、ネットワーク等のシステム不具合に対応している。

また、校内情報化推進委員会において、指導用パソコンの管理や情報化に関する研修会を計画実施している。

(2) 本校のネットワーク活用状況

教職員の校内 LAN は、インターネットと校内に設置されたファイルサーバへのアクセスに利用されている。

インターネットの利用は、主に教育資料の収集や電子メールに利用されている。また最近、コンピュータ利用に熟達した教員を中心として新たな取り組みも始まっており、e-learning を取り入れた授業が試みられている。魅力ある授業に対して、コンピュータ技術の必要性を感じる職員は増加している。

ファイルサーバは、今年度より図1のようにフォルダを階層化することによりわかりやすくし、利用の範囲の明確化を行った。また、ファイルサーバへのアクセスは、ID とパスワードによって保護されている。しかし、ファイルの保護や実行プログラムの保護およびシステムの保護を実現するためには、今後より細かなユーザ管理を導入しなければならないと考えている。

しかしながら多くの教職員が一部のコンピュータのスペシャリストの教職員に依存する傾向が高く、セキュリティの意識が育たない状況である。

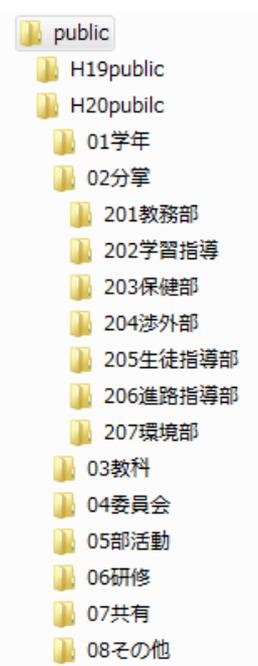


図1 フォルダの階層構造

2 研究の目的

学校ホームページを利用して、教育活動を発信したり、家庭との情報交換を行うことにより学校の活性化につながった事例が報告されている。本校は、数の少ない工業高校であり、それぞれの学校には特色がある。その教育活動をより多くの人に正しく理解いただくためには積極的に学校ホームページを利用していかなければならないと考える。

また、コンピュータシステムのセキュリティに関する事故の報道が数多く報道される中、これに対応するためにもこれまで一部の教職員に委ねられてきたコンピュータシステムを全職員の自立的参加させるような意識改革をしなければならないと考える。

そこで、CMS (コンテンツ・マネジメント・システム) と呼ばれる NetCommons を活用したインタラクティブな学校ホームページを作成し、その効果的なホームページの運営の検討を行う。

3 研究の概要

(1) 職員の学校ホームページに対する関わり現状把握調査

これまでの限られた担当職員が運営に携わる学校ホームページのシステムではなく、新たに多くの職員による CMS を導入するにあたり、職員のこれまでのホームページとの関わりを調査する。

(2) NetCommons を利用したホームページの作成

まず、新しいホームページがこれまでの利用者に対して利用しやすいものであるために、これまでの形態を再現することを目指した。NetCommons を利用すると細かな作りこみはできないが、簡単にホームページ作成することができた。

(3) インタラクティブな学校ホームページ運営の検討

多くの人が参加する場にはルールが必要であり、また安定した運営には適切な権限管理を構築しなければならない。

4 研究課題および課題設定の理由

ホームページの更新において、これまでのシステムでは、ホームページ管理担当教員が決済を受け、ファイルの作成を行い、サーバへアップロードする手順が進められていた。手間がかかり、校務の合間に作業をするので、更新が先延ばしになることが少なくなかった。また、保護者などからは、身近な学校との連絡手段でありながら、ホームページの情報が最新のものではないなどの指摘があり、ホームページによる有効な情報発信が期待されている。

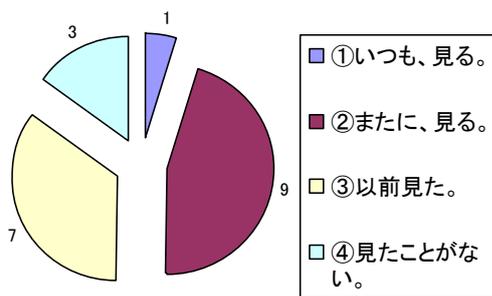
5 実践報告

(1) ホームページの利用状況に関する職員アンケート

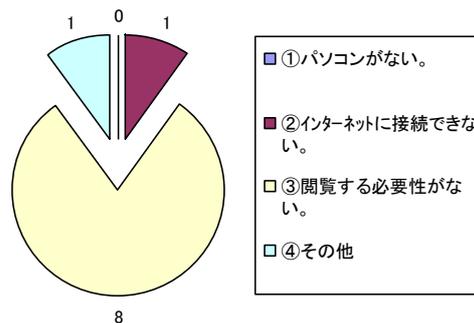
現在の本校のホームページにおける、利用状況、利用目的、そして学校ホームページに対する考え方についてのアンケート調査を行い、職員 70 名中 20 名の回答を得ることができた。結果を図 2 に示す。このアンケート結果より、以下のことが明らかになった。

- ・約半分の職員が熊谷工業高校ホームページを閲覧している。
- ・熊工ホームページを閲覧しない理由は、必要性がない（情報の利用価値がない）と考えている理由が多い。
- ・熊工ホームページにおいて、学校の最新のニュースや学科・部活動紹介がよく閲覧されている。
- ・ほとんどの職員が、熊工ホームページを活用すべきであると考えている。

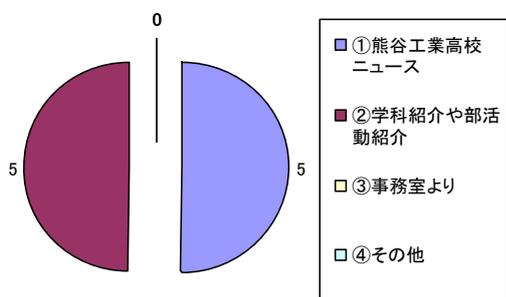
1. 本校のホームページ(ウェブサイト)をご覧になったことがありますか。



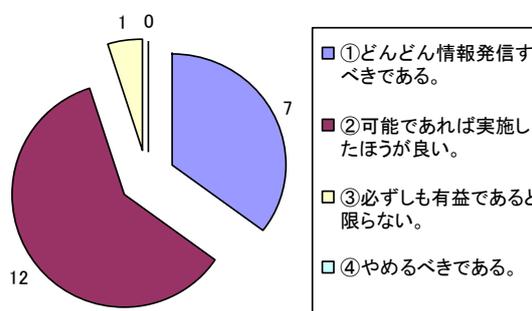
2. 1. で ③、④と回答した方にお聞きします。その理由は何ですか。



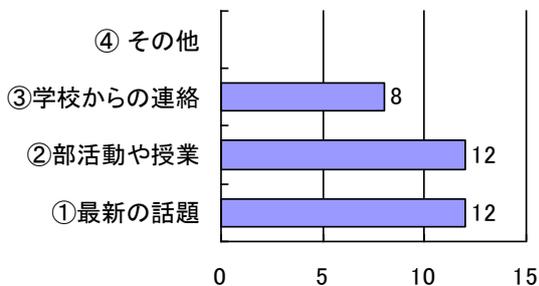
3. 1. で ①、②と回答した方にお聞きします。どのページをご覧になりますか。



4. 学校のホームページによる情報発信は、有益であり実施したほうが良いと思いますか。



5. ホームページでは、学校のどんな情報を提供すべきと思いますか。(複数回答可)



6. ホームページにあればよいと思う機能などは、ありますか。(複数回答可)

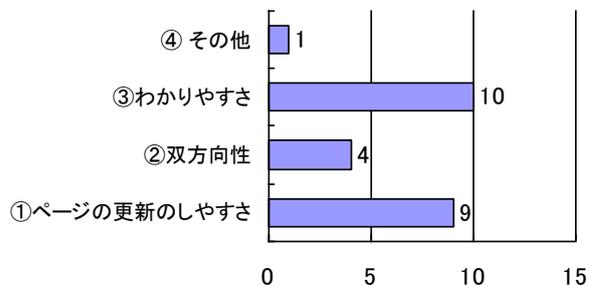


図2 アンケート結果

(2) 学校ホームページの作成

アンケート結果を踏まえ、単に情報を発信するのではなく、全員参加のインタラクティブなページを目指すこととした。そして、現在のホームページを分析し、運営の容易さも考慮した新しいホームページの作成を行った。

NetCommons を利用して作成されるホームページは、ページの階層が浅く広がり大きい構成となる。よって、無理にこれまでの本校のホームページの階層の深さを実現するのではなく、NetCommons に対応した新たにページ設計を行った。その際ページ更新の容易さを考慮して、トップページの構成

は更新部署単位とした。

作成した学校ホームページを図3に示す。

(3) 校内向け熊工ホームページの作成

熊谷工業高校情報技術科職員6名で図4のような情報技術科のGroupRoomを作成し、内向けサイトを利用した。このGroupRoomでは、掲示板、小テスト、アンケート、チャット、RSSヘッドライン、フォトアルバム、施設予約のモジュールを配置した。(図4)

(4) 学校ホームページの運営

ホームページの更新について、各部署で更新作業ができるようにホームページに係る組織とともに会員権限の構築、そしてホームページの決済機能などを利用した新たなページ更新手順について検討を行なう。また、スムーズに更新が進むように、ホームページに掲載してよい記事などのガイドライン等の運用規定を作成する。

(5) まとめ

NetCommonsを利用して多くの時間を費やすことなく、わかりやすく、ページの更新のしやすさを考慮したこれまでのホームページと見かけ上あまり変わりのない新しいホームページを作成することができた。これから、各部署での更新に向けてのガイドライン作りや作成技術研修等を進めていかなければならない。そして、このホームページづくりに多くの職員が直接参加することは、より良いホームページへとつながり、学校を活性化させることになると考える。



図3 作成した熊工ホームページ



図4 作成した校内向け熊工ホームページ

ネットワークを活用した「開かれた学校づくり」への取り組み

県立越谷総合技術高等学校 教諭 田中 克典

1 本校のネットワーク活用状況

(1) 本校の概要

県立越谷総合技術高等学校は、本校は昭和61年に専門学科の総合技術高校として、スペシャリスト育成をめざして開校された学校である。設置学科は、工業系2学科（電子機械科、情報技術科）、商業系2学科（流通経済科、情報処理科）、家庭系2学科（服飾デザイン科、食物調理科）の計6学科である。

本校は「社会及び企業が求める産業人の育成」をミッションとして、生徒の育成にあたり以下の点をかかげ、全教職員が一丸となって教育活動を展開している。

- わかりやすい授業の実施
- あいさつの励行や身だしなみ、時間・期限厳守といった社会人育成を目指した指導の展開
- コミュニケーション能力（プレゼンテーション能力を含む）の育成
- 進路ガイダンス（就職指導および進学指導）の充実

(2) 本校のネットワーク活用状況

本校は、平成7年度および8年度に実施された「100校プロジェクト」に参加し、その際にインターネット環境が整備された。整備された当初は情報系（情報技術科、情報処理科）の教職員が中心となって運用していたが、平成8年度からは「インターネット委員会」を設置し、各教科、専門学科の授業における活用など、全校的な取り組みに拡大していった。その後、県教育委員会によって整備された「県立学校間ネットワーク」によるインターネット環境へと変わった。現在、「インターネット委員会」は「電算部」という分掌に変わり、校内のコンピュータ・ネットワーク全般の運用・管理など、情報化の推進リーダーとしての役割を担っている。

本校には情報系の学科を中心に現在6つのコンピュータ教室があり、専門学科の授業、放課後の利用（課題研究や部活動）などで活用されている。また、県教育委員会によって普通教室用のパソコンも整備され、生徒が利用することのできるパソコンの数はかなり多く、稼働率も高い。教職員用の校内LANも職員室はじめ、すべての準備室等に整備されており、ファイルサーバ、データベースサーバなどの活用も活発に行われている。

2 研究の目的

「開かれた学校づくり」を推進するためには、ホームページによって、普段の学校の様子や生徒の活躍状況などの情報を積極的に発信し、保護者をはじめとする多くの方々に本校を知っていただくことが必要である。その方策の一つとして、NetCommonsの利用が有効であると考え、「ホームページの内容の充実に向けた効果の検証」、「NetCommonsと従来のページとの並列運用の検証」、「運用のための校内におけるシステム確立の検証」を研究の目的とした。

3 研究の概要

(1) ホームページの内容の充実に向けた効果の検証

NetCommonsを活用することにより、従来のホームページの運用における問題点である更新にかかる時間や負担の軽減により、ホームページの内容の充実が期待できる。NetCommonsを利用したページを

実際に運用し、その効果について検証する。

(2) NetCommons と従来のページとの並列運用の検証

NetCommons は、更新にかかる時間や負担が軽減される半面、従来のページのように自由なデザインのページの作成は難しい。NetCommons と従来のページとの並列運用を行い、それぞれの特徴を生かしたホームページの実現について検証する。

(3) 運用のための校内におけるシステムの確立

NetCommons は、多くの教職員がホームページの更新に関わることが期待できる。その関わり方が内容の充実にも大きく影響するため、組織や協力体制、更新のルールなど校内におけるシステムの確立について検証する。

4 研究課題および課題設定の理由

本校では平成16年度から実施している学校自己評価シートの中で、「開かれた学校づくり」の項目を設け、毎年、保護者対象のアンケート調査を実施している。その中で、本校のホームページに対して、「もっと普通の学校の様子が知りたい」という意見が多く出されていた。元々、本校のホームページの内容が中学生向けの学校案内的な役割だったこと、更新をホームページの管理者である電算部に一任されている部分があることから、保護者からの意見に応じられていない状況があった。

そこで、普通の学校の様子について、保護者をはじめとする多くの方々に知ってもらえるようなホームページ作りを実現するためには、校内のシステム（組織や協力体制、ルールなど）を構築し、外部公開向けの NetCommons のシステムを活用したいと考えた。

5 実践報告

(1) 実践計画の検討（6月）

ネットワークモデル事業の研究校の指定をうけ、NetCommons を利用した本校における実践について、電算部を中心に検討を行った。その結果、以下のように実践することとした。

- ア 従来のホームページに加えて、並列に NetCommons を利用したページを運用する。
- イ 保護者からの要望にこたえるために、日頃の学校の様子や生徒の活躍状況などを積極的に発信する。
- ウ 各分掌、学年、専門学科（6学科）から1名のホームページ係を選出し、更新（投稿）作業を依頼する。
- エ 更新（投稿）した内容は、管理職の承認を得てから公開する。

(2) 企画委員会・職員会議での提案（6月下旬）

電算部と検討した実践計画を、企画委員会および職員会議に提案し、了承を得て、計画通り実施することになった。（別添資料1）

(3) ホームページ係の選出（6月下旬～7月上旬）

各分掌、学年、専門学科から1名のホームページ係を選出するにあたり、できるだけ多くの教職員に関わってもらうため、できる限り兼任（たとえば、学年と専門学科の両方の係を兼ねること）は避けるよう協力を依頼した。

(4) ホームページ係連絡会議・操作研修会（7月4日・期末考査期間の午後）

選出されたホームページ係と興味のある先生方を集めて、校内で NetCommons の操作研修会を行った。（別添資料2） また、今年度中の投稿計画について、年間行事計画を元に原案を示し、各分掌、学年、専門学科での検討を依頼した。この日より NetCommons を利用したページの運用を開始し、ホームページ係の先生方には積極的に投稿してもらうように依頼した。

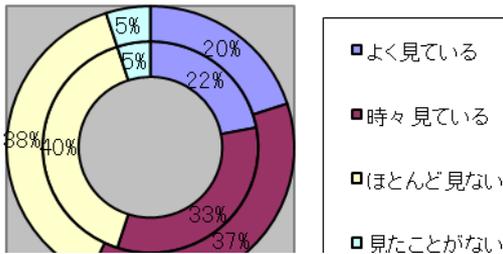
(5) 保護者向け文書の配布（7月18日）

NetCommons を利用したページを加えて、日頃の学校の様子を積極的に提供したり、携帯電話でも見られるように本校のホームページをリニューアルしたことを保護者に通知した。

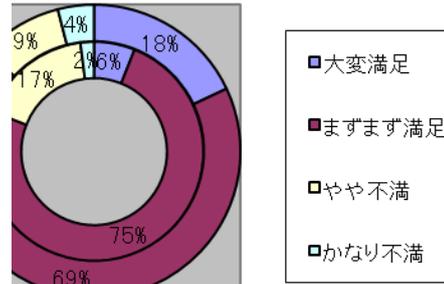
(6) 保護者アンケートの実施・集計（10月～11月）

学校評価運営委員会による「開かれた学校づくり」に関する保護者アンケートを実施した。この保護者アンケートは毎年実施しており、例年、本校のホームページに関する質問項目が設けられており、その集計結果は以下のとおりである。

見たことがありますか？

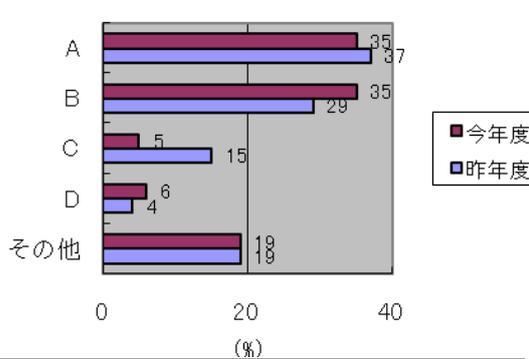


見ている内容について



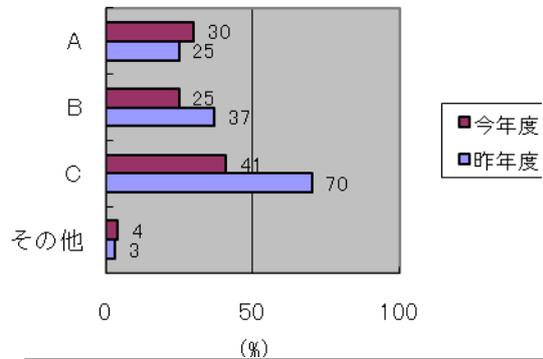
(内側が昨年度、外側が今年度)

見ていない理由



- A インターネットが使えない
(使える環境がない)
- B インターネットに興味がない
- C ホームページの存在を知らなかった
- D 学校に興味がない
- ※その他
時間がない、あまり必要を感じない
内容がつまらない
学校の配布する文書が見られない

あるとよい内容・機能



- A 携帯電話からも見ることができる
- B 保護者向けに配布された文書を見ることができる
- C 普段の学校の様子がわかる内容

NetCommons を利用したページには、運用当初からアクセスカウンタを設けていて、7月から1月の7カ月間で総アクセス数13万件を超えている。詳細なアクセス分析が必要だが、保護者アンケートの結果では本校の保護者がホームページを見ている状況に大きな変化はないことから、保護者以外の方々のアクセスが増えているのではと考えられる。もし、本校生徒が生徒の活躍状況を知るためにアクセスが増えているのであれば、思わぬ効果であり、学校の活性化につながっているものと思われる。

「見ている内容について」の項目では、「大変満足」の数値が大幅に増え、「あると良い内容・機能」

の項目の「普段の学校の様子が見える内容」の数値が大幅に減った。NetCommons を利用したページの運用によって、内容の充実が図られた効果があったものとする。

(7) 今後について

本校のホームページでは、従来のページと並列に NetCommons を利用したページを運用してきた。本校の従来のページは生徒の課題研究における作品であり、主に本校に興味のある中学生に向けた学校案内の内容で構成され、アクセシビリティにも配慮したデザインとなっている。一方、NetCommons を利用したページは、投稿（更新）にかかる時間や負担は少なく、多くの教職員が関われることで、最新の情報を提供することができるが、現在のバージョンは従来のホームページに比べて制限も多く、扱いづらい部分も多い。今後も並列に運用を継続しながら、よりよい本校のホームページを模索したい。

また、投稿については各ホームページ系の先生方の自主性に任せてきたので、実際に投稿している分掌、学年、専門学科に偏りがある。部活動の情報も、現在のところ興味のある顧問の先生方による投稿だけである。さらなる内容充実のためには学校全体の協力体制を確立することが必要である。校内での研修会、投稿（更新）のルール確立などで、より実りある情報を提供できるように今後も取り組んでいきたい。

第3章 まとめ

3校の実施協力校からの報告にもあるように、保護者からの学校の様子をよく知りたいというニーズは高いことがわかる。具体的には、最近の話題や部活動の様子、学校からの連絡などである。学NetCommonsを活用することによって保護者からの満足度は高まることがわかる。

今までのホームページの更新方法では特定の人に負担が集中し更新が頻繁に行えないなどの問題もあった。編集、起案、アップロードまでの手続きが面倒であったが、一連の作業がNetCommonsだけで完結するため更新が頻繁に行えるようになった。操作も簡単なためホームページの更新を多くの教職員で対応することが可能になることがわかった。また、ホームページの更新を学校全体の取り組みするには、学校の組織作りやルール作り校内研修の充実が必要であることがわかった。

今までの停滞しがちであった学校ホームページも更新の頻度を多くすることとで活性化を図ることができた。特に学校行事後速やかにホームページをアップすることが重要であることがわかる。

今回は学校のホームページを中心に調査研究を行ってきたわけであるが、NetCommonsにはその他にも様々な機能がある。アンケート機能や電子メールの配信機能、施設予約、小テスト等ある。学校ホームページだけの活用でなく、緊急時の連絡機能や施設管理、学習機能等への応用が考えられる。これらの機能については今後継続的に検証をする必要がある。また、利用の形態については様々な場面に拡張できる可能性をもっている。

平成20年度から県立学校間ネットワークで利用できるようになったNetCommonsは学校情報の共有化を進める上でも有効な手段であることが確認できた。今後NetCommonsをさらに利用の拡大を図り、県民のニーズに応えた情報発信が行えるようにすることが重要である。

謝辞

本研究の実施にあたり、実施協力委員の所属校の協力を得て行うことができました。協力いただいた県立学校の校長先生をはじめ教職員の皆様にお礼を申し上げます。

また、NetCommonsに関する支援を頂いた国立情報学研究所の皆様にお礼を申し上げます。

参考資料

ネットコモンズ公式サイト <http://www.netcommons.org/>

実施協力委員一覧

県立小鹿野高等学校	教諭	川久保慶彦
県立熊谷工業高等学校	教諭	田村 健一
県立越谷総合技術高等学校	教諭	田中 克典